

Vol. 9



## 市民による、市民のため の町案内

「函館移住を決心させた  
箱館歴史散歩の会」

かし、その中でも箱館歴史散歩の会が印象的だったのは、「観光」をまったく意識したものではないということでした。

もちろん噂を聞いて参加する観光客もいましたが(私も最初はその一人でした)、日本人のお考えは、対象はあくまでも地元市民であるという点で貫していました。

中尾仁彦さんの「箱館歴史散歩の会」が、5月29日をもって最終回を迎えた。じ本人の思うところであつてのことと拝察しますが、多つときは参加者が150人にもなるというほど大盛況だっただけに淋しい限りです(最終回の参加者は、約180人に達しました)。

また、多くが子育て終了世代という参加者に対して、「みなさんがお子さんやお孫さんのほとんちは、高校を卒業すると函館を出ていくだろう。雇用機会の少ないことなどを考えると、それはもう仕方のないことかもしれない。だけじこの会で聞いて帰った函館の誇るべき歴史について、ぜひ、お子さんやお孫さんに話して聞かせて、函館を出ても函館へ

の愛着を持ち続けるようになつてしまつた」というのが、聞き手側の心理だと思います。

ところが箱館歴史散歩の会の場合、じ自身も函館市民である中尾さんが、函館市民に対して、函館の歴史を熱く語つてゐるのです。そこに何ら損得勘定は感じられません。そういう場面を目の当たりにして、函館は魅力ある町に違いない、と私は確信したのです。

近じのほどいとむに町歩きの会が盛んですが、じのよつな会を成功させることは「真面目なだけではダメ、面白くなくてはならない」。これもまた、箱館歴史散歩の会から学ぶべき事柄ではないでしょうか。

「面白さ」というもう一つの魅力

箱館歴史散歩の会は、平成20年4月10日の第一回から足かけ8年続きました。原則月2回、足元の悪い冬場は月1回の座学となり、実に137回も開催されました。案内する場所が重複することはあっても、その都度テーマは異なりました。

全国じの町にも郷土史の愛好家はいるでしょうし、私自身、旅先で地元市民による町案内に参加したことは一度や2度ではありません。世界遺産となつた島根県の大森銀山でも、そういう会を体験しています。し



「箱館歴史散歩の会」最終回(ハリストス正教会前)

市電を使った歴史散歩や五稜郭界隈の歴史散歩などもありましたが、

### ★プロフィール★

おお  
大西  
にし  
剛さん  
つよし

大阪出身。

2011年秋より、函館に移住。  
「新函館ライブラリ」を設立し、函館発の電子書籍・印刷書籍の出版に取り組む。

2012年には、2008年秋から  
の函館通いで感じた町の魅  
力を綴った「新函館写真紀行」  
を出版。

現在は、移住サポーターとし  
ても活躍している。